

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和7年度 川西市健康づくり推進協議会		
事務局(担当課)		健康医療部 保健・医療政策課		
開 催 日 時		令和7年8月4日(月)午後2時～午後3時 30 分		
開 催 場 所		川西市役所4階 庁議室		
出席者	委 員	<p>出席 織田委員、松浦委員、樋口委員、佃委員、林委員、蜂須賀委員、株本委員、松隈委員、川本委員、金子委員、泉委員</p> <p>ウェブ出席 須藤委員、臼井委員</p> <p>欠席 日下委員、武内委員、渡場委員</p>		
	そ の 他			
	事 務 局	<p>健康医療部: 松本部長、今井副部長</p> <p>保健・医療政策課: 日浦課長補佐、藤本、井上</p> <p>保健センター: 森所長、石見保健師、赤尾歯科衛生士、宮代栄養士</p>		
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会 議 次 第		<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1)第2次川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和6年度実績)について</p> <p>(2)食育フェアの開催について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>		
会 議 結 果		別添「審議経過」のとおり		

審議経過

1 開会

開会の挨拶

(ウェブ出席者について本人であること及び意思疎通ができることを確認。過半数の出席を確認し、川西市健康づくり推進協議会規則第7条第2項の規定に基づき、審議会の成立を報告。)

自己紹介

2 議事

(1) 第2次川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和6年度実績)について

第2次川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和6年度実績)について事務局より説明

【質疑・応答】

(委員)

歯の健康について、私はこどもの頃から虫歯が多かった。未だに虫歯ができる状態なのだが、ウォーターフロス等を活用しはじめてからかなり良くなった。歯磨きの仕方が悪かったのかと思う。歯磨きの補助道具へ助成金等の仕組みがあれば、広がって虫歯の予防に繋がるのではないか。

(委員)

昔は虫歯が多かった、今虫歯の本数を示すDMF指数で、12歳の時点で虫歯がある人は昔に比べて半分以下となっている。ずいぶん良くなっているが、このDMF指数というのは、例えば10人が1本ずつ虫歯がある状態と、10人中9人が0本で残りの1人が10本虫歯がある場合、どちらも1になる。現在の状況でいえば、どちらかというと後者である。つまり、虫歯が全くない人が多い一方で、虫歯がある人は沢山の虫歯があるという状況で、二極化している。今は虫歯が沢山ある子をいかに減らしていくか、そこに注力して、格差を減らしていきたい。

もう1点、ウォーターフロス等の補助道具について、悪くはないが、基本的には手動ブラッシングさえきちんとできていればそれで十分。補助道具に頼りすぎるのはよくない。ただし、身体的不自由などで、手動ブラッシングが難しい方については、非常に効果があると思う。あくまでも補助道具は補助道具との考えをもってほしい。

(委員)

最終的にはかかりつけ医につながれば良い。口腔ケアにつなげて、歯周病の改善にも活かしていきたい。80歳で20本の歯を残すことを目指してもらいたい。

(委員)

たばこやアルコール等だけに限らず、非行防止の観点から、指導を各校それぞれで行っている。

(委員)

現在、薬物乱用防止の授業のために、川西市や猪名川町に薬剤師を派遣して、1時間弱の授業を行っている(小・中・高校)。禁止薬物を使用しないといった話から、オーバードーズ防止など薬の正しい使い方を教える活動をしている。

(委員)

学校給食の残食率について、数値の算出方法及び1.数%という数値の捉え方は？

(事務局)

担当課に確認し、後日回答する。

(給食課後日回答)

残食率については、小学校において、市独自で年2回実施している学校給食残食調査の副食の残食率の平均値を基準としている。残食率の調査は令和6年度には11月と2月のそれぞれ5日間にわたり実施しており、計25品の料理について残食率を測定した平均値を算出している。コロナ禍以前は残食率が1%未満で推移していたが、コロナ禍以降は給食指導の方法が変化したため、近年の残食率は1%台で推移している。1~2%という残食率は比較的低い値であると考えられるが、これらの数値は全校平均値であり、学校ごとや料理ごとに差がある点や調査期間がわずか10日間に限られる点を踏まえ、これだけで給食の実態を評価することには課題が残るといえる。

(委員)

歯科医師会では米飯給食を推進している。昨今の米事情を踏まえた将来的な展望やコストに関して、どう考えているのか。

(事務局)

この場では具体的な納入元までについては把握できていない。しかし、昨今の物価高にどう対応するかは喫緊の課題であると認識している。給食が提供できなくなる事態はあってはならないため、財源を含めた対応について担当課に確認する。

(給食課後日回答)

学校給食においては、給食で使用する米の安定供給を確保するため、兵庫県スポーツ協会(学校給食・食育支援センター)から米を購入している。このため、米の価格が値上がりしているものの、市場の価格変動ほど大きな影響は受けていない。また、給食費の見直しに際しては、米の価格を考慮した上で設定を行っている。一方で、就学前施設では市内の事業者から米を購入しているため、学校給食と異なり使用量が少ない状況である。献立の工夫などにより対応しているものの、価格高騰の影響を強く受けているのが現状である。このため、給食における主食費に関して検討が必要な状況にある。

(委員)

米については県による管轄のものを使用している。給食費については、ここ数年でいくらか値上げしており、保護者に一定の負担をお願いしている状況である。保護者の負担軽減と給食の質の維持を目指して取り組んでいる。また、米に限らず、季節や災害の状況によって食材の価格が変動するため、その都度献立を変更するなど柔軟に対応している。

(委員)

川西市の食育活動は以前から非常に活発であり、目標通り実施されていると評価している。地産地消にも注力されていたと記憶しているが、現在の状況はどうなっているのか。

(委員)

協力していただける生産者や農家の方々が増加している。一度にすべての学校に提供することは難しいため、輪番制を取り、例えば今回は3校分を…といった形で供給している。1学期には玉ねぎ、ジャガイモ、トマトが提供され、2学期には大根や里芋などが供給された。地域の生産者に協力いただけることで、地元野菜を使用していることを子どもたちに知らせると、意欲的に食べてくれるため、大変良い取り組みであると感じている。

(委員)

近年では電子黒板を活用し、給食室の様子や食材の情報、献立などを確認しながら食べることができるようになっている。

(委員)

地域産の安全な野菜や、家庭ではなかなか食する機会のない食材が給食で提供されていることもあり、子どもたちは喜んでいと聞いている。ある先生が他県の給食試食会に参加した際、川西市の給食がいかにも素晴らしいかを実感したと話されていたことが印象的であった。このような取り組みを今後も継続していただきたい。

(事務局)

令和7年1月からスマートフォンアプリを活用した介護予防・健康ポイント事業を開始している。ボランティア活動やイベントに参加することでポイントが付与される仕組みであるため、活発な地域が増加しているとの報告を受けている。事業開始直後ではあるが、地域に馴染みつつあると感じている。

(委員)

川西市健幸まちづくり計画として一次予防を担当していただいている。今後も引き続き、市と健康福祉事務所とが連携し、一体となって取り組んでいきたい。

(2) 食育フェアの開催について

令和6年12月15日(日)にキセラ川西プラザで開催した食育フェアについて、実施概要を事務局より説明

【質疑・応答】

(委員)

30～40代の参加者が多いことは非常に素晴らしいことである。

(委員)

独自に実施したアンケートの結果では、参加者の53%が40歳未満であり、若年層の参加率が高かった。また、75%以上の方々が、若い世代を含めて食生活に気を配っていることがわかった。「日頃から気をつけていることは何か」という質問には、1位が「朝食を取ること」、2位が「野菜を摂ること」、3位が「タンパク質を摂ること」といった回答が多かった。食生活を自分事として捉え、改善しようとする意識を持っていた点が非常に良かった。こうした参加型の取り組みは大きな効果があると感じている。また、川西市では子育て世代が食生活に意識を持つ割合が高いことも明らかになった。

(委員)

一方で、高齢者の場合、一般的な食育が通用しにくいことがある。例えば、肉を食べることを勧められても、個々の事情により十分な食事が難しいことがある。そのため、高齢者向けのテーマを設けることができれば良いと感じた。

(事務局)

幅広い世代を対象としているため、ポイントを絞ることが難しい状況である。どの世代にも役立つイベントを企画し、取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

防災に関して、薬局で販売されている5年保存可能な保存食がある。保存期間が切れた保存食を活用して試食会を行うと、その意外な美味しさを知ってもらえるのではないか。それをきっかけに備蓄を進める人が増えるかもしれない。一度試食会などを企画してみてはどうか。

(委員)

防災訓練イベントでは、豚汁やアルファ化米などの試食が提供されている。地域のイベントに参加している人々は食べているが、市販品の価格が高いため、備蓄を進める人が少ないのではないかと感じた。

(委員)

防災における食の意識を日頃から高めることが重要である。ぜひ考えていただきたいテーマである。また、行政イベントで若い世代の参加率を上げることが難しい状況であるが、このような取り組みを活かして参加率向上につなげてほしい。

(委員)

高齢者の場合、一人で料理をしなくなることが多く、肉などを食べる機会が減ってしまう。一方で、30～40代は成人病や中年太りなどの増加が課題となる年代でもあり、食事に関する意識が高まる可能性がある。参加しやすい食育フェアの実施を目指し、行政としてさらに努力してほしい。

3 その他

2025年(下半期版)かわにし食育カレンダーを配付

4 閉会

閉会の挨拶